

アワプララジオ通信【2015年12月号】

インタビューシリーズ

首都圏のNPO・NGOや市民活動を紹介するラジオ番組『東京ラブレター』のナビゲーターとして

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV 高木祥衣さんに聞く



一般企業での勤務を経て、2007年にOurPlanet-TVのスタッフとなる。会員対応などの事務局業務全般を担当しながら、イベント企画・広報、ファンドレイジングなどを手がけている。インタビュー番組ではインタビュアーも務める。

OurPlanet-TVは2001年に設立された非営利のオルタナティブメディア。環境、人権、子どもやジェンダーなどのテーマを扱い、大きなメディアが見過ごしてしまいがちな市民の目線に寄り添った情報をインターネットで配信。映像制作のワークショップなども行っています。

ちなみにアワプララジオの活動はOurPlanet-TVで出会った仲間たちによって始められ、グループ名も通称の“アワプラ”にちなんでいます。

●ウェブサイト <http://www.ourplanet-tv.org/>

——高木さん自身はスタート時にはまだかかわっていなかったとのことですが、番組が始まったときのことを訊いてきてもらっているそうですね。

阪神淡路大震災から10年目を向かえた2005年、OurPlanet-TV（アワプラ）が節目となるようなライ

ブ配信を神戸のあるところから委託されました。そのときにアワプラの設立者で代表の白石草（しらいしはじめ）さんと当時の製作スタッフが神戸に行ったそうです。

そのときに白石さんが神戸市長田区のラジオ局『FMわいわい』の日比野（純一）さんと知り合って、お酒を飲んだりして意気投合したらしいんですよ。それが縁で翌年の2006年に、何か一緒にやらないかという話をFMわいわいさんの方から頂きました。最初どんな番組にしようかと考えたとき、せっかく東京から神戸に届けるのだから、このOurPlanet-TVもNPO法人なので東京のNPO、NGO、市民活動と呼ばれるものの情報を伝える番組を作ろうということになり、2006年の7月に放送が始まった……ということを知りました。

もともとは『恋するNPO』という番組タイトルで現在は『東京ラブレター』なのですが、なんで“恋する”とか“ラブレター”なのかということも訊いてみたのですが、特別これだという理由はないようでしたね（笑）。市民メディアというものについては、私もいろいろ考えるところがあって、時代に沿ってかたちは変わってくると思うのですが、やっぱり市民（の目線）や多様な情報を発信するということとFMわいわいとOurPlanet-TVは取り組んでいる事業はそれぞれ違っていても、思いを共有できているというのかな。

——歴代のナビゲーターは多方面で活躍されている方が多いですね。

初代のナビゲーターは、OurPlanet-TVの会員で活動にも関わって頂いたフリーライターの岩本太郎さんと当時アワプラのスタッフだった橋爪明日香さんでした。それからメディア研究者として大学でも教

鞭をとっていらっしやる金山智子さんが引き継ぎ、その後私と当時 OurPlanet-TV の事務局長だった池田佳代さんで務めるようになりました。

それからは私が一人でやっていた時期もあれば、スタッフの平野（隆章）さんと一緒のときもあり、そして今こうしてあべさんと一緒にやっているという状況ですね。もともと私もおしゃべりすることはあんまり得意ではなく、最初に池田さんと始めたときはいろいろな方から「それじゃだめだ！」といったダメ出しをたくさん頂いていました。平坦な道ではなかったのですが続けてはいますね。

——今までで印象に残るゲストさんはいますか。

年越し派遣村（※1）のボランティアをされていた方のお話は印象に残っていますね。年越し派遣村はすごく話題になりメディアでもたくさん取り上げられていましたが、混乱している現場で何が起っていたのかということを知ったのはよかったですね。

新聞やテレビでは何人集まりましたというような表面的なことしか報道されませんが、その中の人はどうやって日比谷公園にたどり着いたのかといった、一人でも顔が見えるような話を聞くことが出来たのはとても貴重な経験でした。ラジオならではということもありますよね。

——私（あべ）は番組にかかわることが楽しいです。

私も楽しいですよ！ 自分たちが普段、知る情報として今ではインターネットもありますので、個人のブログなどへ行けばわかるのですが、だいたい“声の大きい人”の話になってしまいがちです。

東京ラブレターは顔がよく知られた NPO の代表といった方のお話を聞くこともあれば、誰に注目され

るのではなくても地道に活動を続けている人、「そんな活動をしている人がいるんだ！」というような人のお話が聞けることが私はとても楽しいですね。

基本的に現在ならあべさんと私がゲストを探して（出演を）お願いしてというかたちでずっとやっていますが、一時はゲストの方に次のゲストの方を紹介してもらおうということを試みた時期がありまして。自分たちではリーチが届かない方を紹介していただけるということはあったのですが、それは難しく長くは続きませんでした。

——今後の目標についてお願いします。

まずは来年、東京ラブレターが 10 周年を迎えるということで、何か記念になることが出来たらいいなと考えています。

個人的な目標としては、こういった仕事をしているのでメディアの可能性というのをとても強く感じていて、私自身は自分が何かを伝えたい、自分で映像を撮りたいというタイプではないのですが、そういった人たちをサポートしたり、メディア作品を活用していくプロデュース的なお仕事をしたりできればいいですね。（たかぎさちえ）

<まとめ：井上舞香>

※1 派遣切りされた労働者らに年末年始の食事と寝泊まりできる場所を提供しようと、労働組合や支援団体「反貧困ネットワーク」など約 20 団体が昨年（※編集部注：2008 年）12 月 31 日～1 月 5 日、東京の日比谷公園に設けた。想定を上回る人が集まり、実行委員会によると 5 日朝までの「入村者」は約 500 人。2 日には厚生労働省が省内の講堂を緊急開放した。生活保護の相談などにも応じた。（2009-02-13 朝日新聞 朝刊 1 社会）

※ウェブサイト『コトバンク』より引用。



東京ラブレター

神戸市長田区のコミュニティ FM 局『FM わいわい』（77.8MHz）の番組『東京ラブレター』の制作を、アワプララジオは手がけています。東京ラブレターは、首都圏で活動する NPO や NGO、または市民グループや個人の方を

紹介する番組です。毎週木曜日の 21:00～21:30、月替わりでオンエア中！

●12 月のオンエア【3 日、10 日、17 日、24 日、31 日】※内容を次号のインタビューシリーズとして掲載予定です。

「法律や環境を学ぶ学生さんと振り返る 2015 年」／大学生 田中栄里花さん、田村聡さんに聞く
ナビゲーター：あべこう一、高木祥衣（OurPlanet-TV）

協力：特定非営利活動法人 OurPlanet-TV 制作：アワプララジオ

→番組を聴くには

【パソコンで聴く】「サイマルラジオ」にアクセス。「近畿」→「FM わいわい」を選択。※Mac の方は Windows Media Player をダウンロードしてください。

【スマートフォンや ipad で聴く】サイマルラジオに対応したアプリ「TuneIn Radio」をダウンロード。（検索窓で「FMYY」）。

本の紹介

母がしんどい (2012年3月)

田房永子 著・KADOKAWA/中経出版・952円



重く深いテーマをコミカルなイラストで仕上げた一冊だ。家族である母と関わることが、苦しく、辛い。著者のその実体験が基になっている。

なにかをすれば怒られる。なに

もしなくても怒られる。意見を言えば「お前は誰に育ててもらってるんだ」と脅される。「バレーを習いなさい」と強要され「もうやりたくない」と訴えれば「我儘を言うんじゃない、このグズ」と激昂する。だが突然母の気分で「ごめんね」と抱きしめられることもある。母の行動が理解できずに戸惑う子供時代を経て、成長した著者はひとり暮らしを決めるが、そこでもまた母が立ちはだかる。「母を捨てる子供は要らない。勝手に生きていけ」と泣きわめく。母の気分次第で自分の人生が振り回される。そんな生活に著者の心と体が悲鳴を上げ始める。

やがて自分が一人の人間としてきちんと生きていないことに苦しさを覚え始め、母から離れることを決意する。母のいない人生を生きる。それは辛いことでもあり解放される瞬間でもあった。

家族を悪く言うことは罪の意識を感じやすい。しかし血の繋がりの中に必ずしも愛情があるとは限らない。なくてもいい。著者と同じ傷を持った人ならきっと共感できる本だろうと思う。(浅香友里)

〈貧乏〉のススメ (2009年10月)

齋藤 孝 著・ミシマ社・1620円



「声に出したい日本語」等の著書があり、テレビ番組のコメンテーター等でも活躍している大学教授の著者が、貧乏生活のすすめを記した本。著者自身も大学卒業後、大学院に8

年いた後に籍がなくなり、妻子がいる中で定職がないという貧乏時代があったという。それだけにアドバイスも具体的で、力のこもったものとなっている。

著者は冒頭で、貧乏を力に変えるには、貧乏そのものを楽しむ、貧乏を二度と味わいたくないという思いをバネに成功を目指すという2つの方向性があると言っている。特に前者の視点は年代に関わらず、さまざまな立場の人に役立つ。

学生の時、無職の時など、お金を稼ぐシステムのすみっこに追いやられた時、何を資源として生きていけばいいかが見えてくる。仲間を持つ、人生のベースを持つ事など大切な事が色々書かれていたが、何より印象に残ったのが、「貧しても鈍しない」という事だ。脱経済成長のムードも、個人レベルでの収入の減少も、この貧乏における最大の落とし穴である「鈍する」を回避すれば、エンジョイしていけるはずだ。著者は鈍しないためには、人間関係だけは貧しくするなどと言う。私も社会から遠ざかったように感じる時も、人とは積極的に会っていこうと思う。

(大森周子)

<2016年1月号から紙面をリニューアル!!>

新年号からデザインを一新、紙面が変わります。新しい執筆者が加わり新コーナーもスタート。よりコンセプトも明確にわかりやすくしていくことを心がけて、インターネットを使わない方にも届く、ネットラジオ局が発信する楽しいニュースレターづくりにこれからもがんばってまいります。ご期待ください。今後ともよろしく願いいたします。



ビッグイシューという雑誌。どういうジャンルかと問われれば情報誌であるということになるのでしょうか。国内外の文化人などへのインタビューや浜矩子さん（経済学者）の連載コラム。生き方、働き方、平和や原発の問題、NPO活動にかかわる話など多岐に渡り読み応えのある雑誌です。

ビッグイシューは書店などでは買えません。出版社直販の雑誌というわけでもありません。専用のIDカードを付けて街角に立つ販売者さんから購入するのですが、その販売者さんは基本的にみなさんホームレスです。

ビッグイシューはもともと、ホームレス状態にある人々が収入を得る機会を与えるための事業として、ロンドンで始まった活動です。一冊の販売価格 350 円のうち、180 円が販売者さんの収入になります。

ホームレスというと怠惰な人などといった偏見を持たれることもあります。誰にでも失業や病気、対人問題などが引き金となって起こり得ること。そんなホームレス状態にある人というのは、炊き出しなどの施しによる支援の対象としてであったり、貧困ビジネスという言葉にも象徴されるように、昨今では搾取の対象とさえみられがちだったりするところ、ビジネスパートナーとして迎え入れるという発想がすてきです。

表紙にも「ホームレスの仕事をつくり自立を応援する」とあるし、なんとなく非営利団体の活動かなと思ってしまうそうですが、この事業を行うビッグイシュー日本は有限会社。2003年に設立したときは周囲から100%失敗すると言われていたそうです。日本的にはつい行政やNPOの仕事だと考えがちなのを営利企業が実行し、正当な利益を追求する“社会的企業”の発想と心意気をもっと社会に広がれば、日本企業にみられる負の側面も良い方向へ変化していくのではないのでしょうか。

ビッグイシューについてもっと知るには、代表である佐野章二さんの著書『社会を変える仕事をしよう』（日本実業出版社）をぜひどうぞ。（本紙編集長、Singer songwriter、Radio personality）

■あべこう一の最新情報

●2015. 12. 6（日）下北沢スムルトロン（東京）

ライブ「フリマ&ライブの幸せな日曜日@スムルトロン Vol. 3」出演

時間：12：00～スタート

会場：ダイニング&ミュージック スムルトロン（小田急線・京王井の頭線『下北沢駅』北口・西口5分）

チャージ：無料（要ワンオーダー）

※12：00～12：30（オープニング）で演奏予定。オンジー（ギター&コーラス）との共演曲もあり。

あべこう一公式ブログ <http://ameblo.jp/kohichi-abe/>

あべこう一スペシャルサイト <http://k-abe.jimdo.com/>

アワプラジオ通信とは

インターネットラジオ アワプラジオが毎月末前後に発行している、“紙のラジオ（読むラジオ）”です。すべてボランティアによるスタッフで制作・編集を行っています。最新号は千代田区社会福祉協議会（東京）の中にあるちよだボランティアセンターなどに置かせていただいています。また、アワプラジオやあべこう一がかかわるイベント等でも配布しています。バックナンバーがウェブサイト上でダウンロードできます。

置かせていただけたところも随時募集しています。発送を希望される方もお気軽にご連絡ください。

編集後記

もうそろそろ一年を振り返るというような時期になりました。すべてが今日というかけがえのない一日の積み重ね。不本意な過去に心を乱されず、まだ起きていない未来にもとらわれ過ぎず、今このときを大切に。

（阿部浩一）

発行：アワプラジオクリエイティブ

107-0052 東京都港区赤坂3-21-5 三銀ビル3F サポートコール内
TEL: 03-6856-0722 FAX: 03-6856-0723

<http://awapuradio.com/> awapuradio@gmail.com